２０２２年3月２４日

日本棋院九州本部事務局長　様

長崎市こども囲碁教室ネットワーク
会　長　佐 藤　義 弘（公印省略）

日本棋院九州ブロック支部代表者懇談会での提案等について

拝啓　春暖の候、貴院ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当団体は、こどもへの囲碁普及活動が昨年度で３０年を迎えることになったため『長崎ジュニア囲碁フェスタ２０２１』を、溝上九段とジュニア世代の棋士３名（酒井二段、田中初段、三浦初段）、長崎市在住の関西棋院高原九段に来場していただき開催しました。

この中で行った「第３０回長崎ジュニア囲碁大会選手権戦（加藤正夫杯）」には、熊本、福岡、佐賀から県代表クラスのこども達が参加、プロ棋士の方々から指導碁を受け、保護者や囲碁指導者の方々も満足していただきましたので、次年度以降も同様な取り組みを継続し、九州の代表的な取り組みの一つになれるように頑張っていきたいと思っています。

九州では、「ＴＯＴＯカップジュニア囲碁国際大会」の開催がなくなり、県を跨いでこども達が交流できる大会は、「市長杯争奪久留米青少年囲碁大会」と「長崎ジュニア囲碁大会」だけと思われます。その久留米大会には熊本、大分、佐賀、長崎等からこども達の参加があります。また、この際には囲碁指導者の方々と情報交換等を行っていますが、数年前、当時のＮＰＯ法人熊本こども囲碁普及会理事長江藤様から九州･沖縄地区団体戦（小学１～６年生、中学１～３年生）開催について言及がありました。（このような取り組みは関東地区で行われています。）私は、民間からスポンサー等を得て開催する方法を思慮していましたが、文化庁が本年度から『伝統文化親子教室事業（地域展開型）』の事業申請限度額を２０倍の3,000万円に増額したことが分かり、昨年１０月に日本棋院普及部林氏と溝上九段に制度の概略をお知らせしました。また、全日本囲碁協会から役員交代の通知が届いたので、協会事務局に制度の存在をメールしたところ平岡代表理事から電話があり、制度の経緯等の説明をした上で囲碁文化振興議員連盟と連携し制度を活用してこども達への囲碁普及活動の推進へ取り組んでいただくように依頼しました。次いで、本年３月１３日に京都で『ボンド杯争奪第２５回全日本こどもチャンピオン戦全国大会』が開催されました。４つの基礎疾患を有する私は本年も出席を見合わせましたが、幹事会会議で私が作成した制度の資料を披露してもらいました。レスポンス等はまだありませんが、全国こども囲碁普及会でもこの制度の活用を視野に入れた活動に取り組まれることを期待しております。

更に、文化庁の伝統文化親子教室事業の本年度採択結果の一部を点検したところ、私が毎年取り組んでいる教室実施型の中にも実行委員会や統括団体で事業を受け入れている団体等があり､地域展開型だけに頼らなくても大規模な事業を行うことができる可能性があること、また、地域展開型の本年度採択結果の中に関西広域連合の取り組みがあるので、簡単ですが資料の中でこの機関について触れてみました。九州・沖縄では九州地方知事会で災害復旧等での連携は取り決め等があるようですが､“文化振興”も連携等してもらえればと希望しています。

つきましては、文化庁の伝統文化親子教室事業関係についての説明とこの事業を活用して行う九州・沖縄での囲碁普及活動に関して、ご出席の皆様のご意見等を賜ります機会を設けていただきたくご配慮をお願い申し上げます。